

へき地・複式・小規模校の特性を生かした学校・学級経営と学習指導の深化・充実

中41 清竜中学校 伊豆丸早苗

本校は、全校生徒数196名、1学年2クラス、発達学級2クラスで、合計8学級の小規模校である。小規模校であることのメリットとしては、学校行事や部活動、生徒会役員等において、生徒一人一人の個別の活動機会を設定しやすく、多くの生徒がリーダーとしての役割を経験できることや、生徒相互の人間関係が深まりやすいことが挙げられる。しかし、多様なクラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすいデメリットもある。そのため、①コミュニケーション活動の深まりや広がりを目指すことで、今までの生徒同士の望ましい人間関係を継承しつつ、相互の悪しき評価を改善して、よりよい集団を築くこと、②誰しものがリーダーとして責任ある役割を担えるように成長していくこと、の2つの目標のもと、現在2年生の66名に対し、入学当初から、計画的に様々な場を設定してきた。

1 学年集会

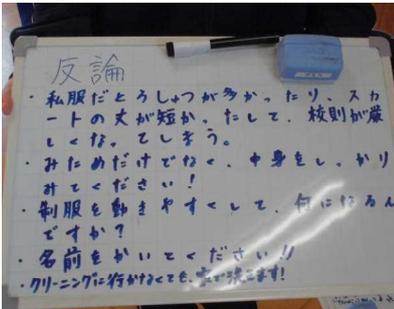
月に一度、学級委員・有志による参加者（スマイルリーダー）の企画・運営による1時間の集会を行っている。学年委員長・野外活動実行委員長からの話、学年代表生徒の「深い話」、学級対抗ゲームなどが中心である。回数を重ねるごとに教員のアドバイスを少しずつ減らしてきたが、実施から1年半が過ぎ、自分たちで考えた劇やコントなども堂々と演ずることができるようになってきている。今後も全ての生徒に学年集会作りのチャンスを与え、支援していきたい。



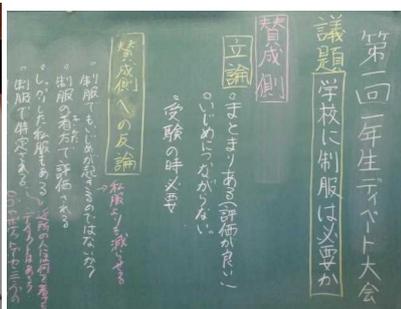
<企画・運営グループ 地図調べ大会>

2 ディベート

「小集団で作戦を立てて、論理的に意見を発表する」というディベートは、「学年全員の顔や性格を知っている」本校生徒にとって、反論が予想しやすく作戦が立てやすい活動である。発表につまずいても、「小集団」の誰かが助けてくれるという安心感があり、勇気を出して発言できる雰囲気を作られる。そのため、1年に2回テーマを設定し実施している。特に「中学生に制服は必要か」のテーマの際には、2時間の準備会、ディベート本番1時間半、反省会1時間で実施したが、予想以上の盛り上がりを見せた。



<準備万端の反論！>



<黒板に書き切れない意見>



<時間が足りないと訴える人たち>

3 野外活動実行委員立候補者 立合演説会

(第1学年 学年便りNo.40号 R2.1.24 より)これからいろいろな場で「リーダー」としての言動を要求される君たちの成長を支える方法として、5月に行われる「野外活動実行委員」の選出方法を、「完全立候補制」にすることにしました。「自分を成長させたい」と思う人に、頑張ってもらいたいです。2月6日に演説会を行います。何をやりたいのか、どんなことでみんなの役に立ちたいのかなどを、一人3分以内で話し、その演説を聞いて、みんなが投票します。学年全員の前で、3分も話をする機会など、なかなかもらえるわけではありません。これは立候補した人たちには、とても大きな成長のきっかけになると思います。また、たとえ選ばれなくても、自分の足りなかったところを知ることができます。

